

関東学院大学戦略的プロジェクト研究 研究成果報告書

2015年 3月 31日

1. 研究代表者

研究代表者名	所属	職
水井 潔	理工学部	教授

2. 研究課題名 ICTによる人と情報のネットワークは地域変革を起こせるか～6学部によるフィジビリティスタディ～3. 研究期間 2014年度

4. プロジェクトメンバー

	No.	氏名	所属	職
研究者	1	水井 潔	理工学部	教授
研究分担者 (大学院生含む)	2	新井 克弥	文学部	教授
	3	中泉 拓也	経済学部	教授
	4	岡嶋 裕史	経済学部	准教授
	5	永長 知孝	理工学部	准教授
	6	兼子 朋也	人間環境学部	准教授
	7	折田 明子	人間環境学部	講師
	8	坂梨 薫	看護学部	教授
	9	出石 稔	法学部	教授
	10			

5. 費目別収支状況

	合計	研究経費				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金	その他
実支出額の使用内訳	463,294 円	0 円	90,535 円	0 円	213,890 円	172,229 円
「研究経費の明細」記載の研究費の使用内訳	720,000 円	0 円	100,000 円	210,000 円	320,000 円	90,000 円
備考欄						

6. 研究成果の概要(200字程度) :

(1) メンバー間での情報交換

各メンバーが取り組んでいる研究内容について情報交換と情報共有を行った。

(2) 横須賀市との情報交換

横須賀市政策局と情報交換と情報共有を行った。

(3) 経済実験の実施

経済実験を常時行える環境を整え、成果を分析した。

(4) 追浜空き家プロジェクト

追浜空き家プロジェクトを学生と共に始動した。

(5) 逗子アートプロジェクト

逗子アートプロジェクトの調査を実施し検討した。

(次項以降は、上記のうち主に(3),(4),(5)について記す。)

7. 研究開始当初の学術的背景、特色及び独創的な点 :

(3) 経済実験の実施

0A ルームで学生にゲーム理論に基づいた選択を実際に行わせて行動データを得る実験経済学は経済学では中核の分野になりつつある。本研究はこの経済実験を常時行える環境を整える意味で非常に意義が大きいと言える。

(4) 追浜空き家プロジェクト

人口減少時代を迎え、今後益々問題となる空き家対策と地域コミュニティの持続策を検討することは重要である。

(5) 逗子アートプロジェクト

全国で盛んに行われるようになってきたアートプロジェクトを、まちづくりやコミュニティづくりの観点から調査する事例は少なく、アートが地域の持続的発展へどのように寄与するかを検討する意義は大きい。

8. 研究の目的と内容 :

(3) 経済実験の実施

ICT技術の進展を地域貢献に生かすことが目的である。ここでは、social Impact bondの分析によるICTによる地方行政の効率化、SNSを用いた地域コミュニティの活性化等に加え、地域でも国際水準の研究を確立できるようになることもターゲットとなり得る。

CVM等の地方行政の政策評価のための基礎データの提供やコミュニティ形成の分析のため、経済実験を行った。

(4) 追浜空き家プロジェクト

横須賀市の谷戸の空き家対策、コミュニティ対策を検討する

(5) 逗子アートプロジェクト

湘南地域のアートプロジェクトを調査し、今後の地域づくりの方策を検討する。

9. 研究方法 :

(3) 経済実験の実施

横須賀市で行っている social impact bond の実証実験の研究提携を行った。

本学の0A ルームで実験ソフト z-tree を用い、学生にゲーム理論に基づいた行動選択を行わせる経済実験を行った。

(4) 追浜空き家プロジェクト

横須賀市追浜の空き家を調査し、その中から活用可能な空き家を選定し、空き家を活用するプロジェクトを学生と共に始動する。

(5) 逗子アートプロジェクト

逗子アートフェスティバル 2014 を対象とし、特にマネジメント体制に着目して、関係者へのアンケート調査およびヒアリング調査を実施し検討した。

10. 研究成果 :

(3) 経済実験の実施

本学人間環境学部と経済学部、看護学部の学生を被験者として、人間環境学部の0A ルームで実験ソフト z-tree を用い、繰り返しゲームの発展系である VSRPD に基づく経済実験を行い、分析データの収集をした。

(4) 追浜空き家プロジェクト

横須賀市追浜の谷戸の空き家対策と地域コミュニティの持続策として、空き家を学生のセルフビルドによるリノベーションでシェアハウスとして再生させるプロジェクトを実現した。

(5) 逗子アートプロジェクト

逗子アートフェスティバル 2014 のマネジメントに関する調査報告書をまとめた。

1 1. 研究成果に対する自己点検による評価

(1) メンバー間での情報交換

メンバーのスケジュール調整が難しく、全メンバーの研究内容の情報交換が終わっていないのが現状であり、今後も取り組んでいく予定である。

(2) 横須賀市との情報交換

横須賀市側のプレゼンテーションを1回、本学側のプレゼンテーションを1回行ったが、まだ十分な情報交換が終わっていない。今後も情報交換を進める。

(3) 経済実験の実施

世界水準の実験を行う環境を確立できたことは大きな成果だが、時間的な制約により、十分なデータを得たとは言い難く、今後も継続的に研究を行うことが不可欠である。

(4) 追浜空き家プロジェクト

空き家プロジェクトはTV および、新聞に取り上げられ、空き家を再生する方策として、社会的に好評価を得たと考えられる。

(5) 逗子アートプロジェクト

アートプロジェクト

1 2. 研究経費と研究成果の関係に対する自己点検による評価

(3) 経済実験の実施

他大学での同様の経済実験と比較しても、費用対効果は大きい。

(4) 追浜空き家プロジェクト

今回の研究経費がなければ、空き家プロジェクトは進捗しなかったと考えられる。プロジェクトを大いに推進したことから、費用対効果は大きい。

(5) 逗子アートプロジェクト

アートプロジェクトの調査にも、費用をかけることができ、寄り多くのデータを収集することができた。研究を大いに前進させた。

1 3. 本プロジェクト研究の成果を踏まえて申請した外部の競争的研究資金及び、それらを獲得するための戦略に対する自己点検による評価

(3) 経済実験の実施

中泉は、2015 年度に基盤研究(C)に応募しているが、それは、この研究を基礎としている。

(4) 追浜空き家プロジェクト

(5) 逗子アートプロジェクト

兼子は、平成 27 年度「大学を活用した文化芸術推進事業」に担当者として応募し、採択された（内定額 8,378 千円）。これは、このプロジェクト研究資金による連携実績が少なからず影響したものと考えられる。平成 28 年度も継続して採択されるよう、必要なサポートを受けたい。

15. 研究発表

〔雑誌論文〕計（0）件 うち査読付論文 計（0）件

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年（西暦）について記入してください（左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

--

〔図書〕計（1）件

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年（西暦）について記入してください（左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

（1）兼子朋也、「逗子アートフェスティバル 2014（ZAF2014）のマネジメントに関する研究報告書」，逗子市，pp. 1-55，2015 年 1 月

〔学会発表〕計（２）件　うち招待講演　計（０）件

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月（西暦）について記入してください（左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可）。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

（１）中泉拓也[2014] 「知的財産権の設計」, 応用経済学会特別セッション 1 - 7A (6203) 12:30～16:00
座長: 細江守紀(熊本学園大学) 応用ミクロ経済 日本応用経済学会 2014年度秋季大会於中央大学 2014年11月15日

（２）Takuya Nakaizumi, “Hold-up Problem in Price Cap Regulation with Limited Ability of Commitment in High Inflation” 日本応用経済学会 2014年度秋季大会於中央大学 2014年11月15日

〔その他の研究成果など〕計（２）件

上記の雑誌論文、図書、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。

（１）Takuya Nakaizumi, [2014] ‘The PIDE School of Public Policy cordially invites you to a seminar On Regulatory Impact and Competition Analysis to be held on Thursday, October 2, 2014 at 11:00 am **Pakistan Institute of Development Economics (PIDE)**

（２）横須賀市追浜 2 丁目空き家改修工事に関わる新聞報道
神奈川新聞、2015年2月3日
読売新聞、2015年2月17日、35面
毎日新聞、2015年2月17日、27面
朝日新聞、2015年2月19日、28面

16. 科研費等の競争的研究資金の申請・採択状況

年度ごとに、科研費等申請した研究資金について記載してください。記載欄が足りない場合は、適宜追加してください。

【2015年度】

〔プロジェクトチームとしての科研費申請〕

申請者名	研究課題名
中泉拓也	金銭的、非金銭的インセンティブの相互作用と情報提供・経済行動の学際研究
研究種目	研究分担者内のプロジェクトメンバー(No.)
基盤研究(C)	7名 (No.2, 3, 4, 6, 7, 8, 9) [研究協力者も含む]
採否	審査結果(順位)
採択	—

〔研究分担者の科研費申請〕

申請者名	研究課題名
水井 潔	安全運転支援のための可視光ブーメラン方式の試作研究
研究種目	研究分担者内のプロジェクトメンバー(No.)
基盤研究(C)	1名 (No.1)
採否	審査結果(順位)
採択	—

〔その他の研究費〕

申請者名	研究課題名		
兼子朋也 (担当者)	相模湾・三浦半島アート・リンク -地域発アートプロジェクトを育て支える人材の育成と交流-		
研究資金名称	研究種目等	採否	
平成27年度大学を活用した文化芸術推進事業		採用	

17. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類・番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕計(0)件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類・番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

18. 備考

研究者または所属研究機関が作成した研究内容または研究成果に関するwebページがある場合は、URLを記載してください。

--

以上